



図書館だより

令和3年5月

八尾高校図書委員会

31H 押川・水上

近年の新興感染症（SARSやMARS）は死亡率がとても高いものが多く、かつ感染者が増えにくいものでした。それに対し、コロナの死亡率は、一説によればインフルエンザウイルスよりも低いといわれています。短期間で収束すると思われていたコロナがここまで長続きしているのは、それが要因だともいわれています。また、潜伏期間や無症状があり、気付にくさも感染拡大に拍車をかけています。富山アラートも発令され、クラスターも起きています。コロナがこれ以上流行らないように感染対策を徹底して日常生活を送っていきましょう。

さて、今年度に入り、図書委員会もメンバーが変わり、新しい体制になりました。今年度の抱負は蔵書の管理を徹底し、どこにどの本があるのかが誰にでもわかるようにすることです。本棚に陳列されている本のなかには、本来の場所とは違う場所に置かれていることがありました。そういったことを無くすために尽力していききたいと思います。



5月図書館
だより担当

図書委員の推し本



「君にさよならを言わない」 七月隆文 宝島社

交通事故がきっかけで幽霊が見えるようになったぼくが、未練を残して死んでしまった幽霊達の最後の望みを叶え、彼らの魂を救う物語。

ある日ぼくは、六年前に死んだ初恋の人、桃香と再会する。桃香は、ある未練を残したままこの世を去った。それは「ぼくたち」が六年前果たせなかったあの約束…。あの日、あの時行きたかったあの場所で、君がぼくに伝えたかったことは、、？今を生きるぼくは、今を生きていたかった幽霊の桃香に、六年越しの約束を遂げる。ぼくは、「君にさよならを言わない」桃香（の思い）と共に生きていく。悲しくて切ない、そしてとても暖かく美しい感動のストーリー。『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』の著者が贈る、切ない幽霊譚。(M)



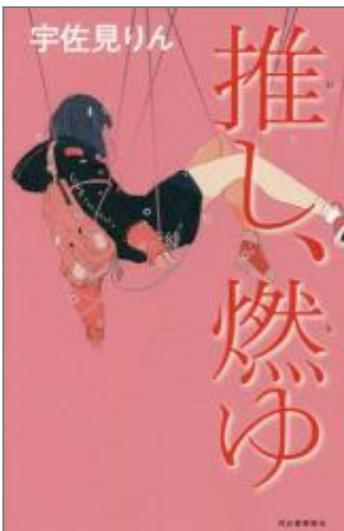
宇佐見りん

推し、燃ゆ

「推し、燃ゆ」 宇佐美りん 河出書房新社

『推しが燃えた。ファンを殴ったらしい。』今までにない書き出しから始まる現代小説。

学校生活も家族関係も上手くいかない日々を送る、高校生のあかり。そんな彼女にとって唯一の生きがいは、「推し」であるアイドルグループ「まざま座」のメンバー・上野真幸を追いかけ、彼を“解釈”することだった。そんなある日、その「推し」がファンを殴って炎上したというニュースが飛び込んできて――。『文藝』に掲載されるやいなや SNS で話題騒然となった、新進気鋭の著者が放つ衝撃の一作。誰かのファンで SNS を活用している方なら、胸に痛く刺さります。芥川賞受賞作。(O)



「ここで死神から残念なお知らせです。」 榎田ユウリ 新潮社

「私、死んでいるの?」「はい。ご愁傷様です」漫画家である主人公が、喫茶店で耳にした不可解な会話。それは、保険外交員風の男が老婦人に契約書のサインを求めている光景だった。男は、死んだことに気づかぬ人間を説得する「死神」だと言う。主人公はその男に、なかば強引に死神業を手伝わされることに。死んだことに気づかない人に死んだことを伝えたり、あの世に魂を還したりという少しブラックな物語で、あっと驚くような予想外の過去を持つ人も——。あなたは、死んでいないと言い切れますか? (O)



「Medium 霊媒探偵城塚翡翠」 相沢沙呼 講談社

推理作家として難事件を解決してきた香月史郎(こうげつしろう)は、霊媒師の城塚翡翠(じょうづかひすい)と出会う。彼女は、死者の言葉を伝えることができた。しかし、霊媒で事件を解決しようとするも、それは証拠にはならない。そのため香月は自身の推理能力を組み合わせることで事件を解決していこうとする。様々な事件を解決していく翡翠だったが、証拠が一切残らないような難事件が起こっていく。事件を解決していくうちに、この二人の秘密が解き明かされていき——。話のすべてが伏線の物語。(M)

[A1]

委員会が始まったばかりで、時間もない中、担当の図書委員が頑張って紹介してくれました！今年もみなさんに親んでもらえる図書館になるよう、図書委員会一同頑張ります！！



【富山にゆかりのある本】展示中

ちょっとでも

富山で撮影されたドラマ・映画、八尾高校が出てくる漫画、出身が富山の作家さんなど、ちょっとでも富山にゆかりのあるものを紹介しています！手に取ってごらんください！

